

平成 29 年 6 月 22 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26420602

研究課題名(和文) 変容過程からみた雁木町家の相隣関係と街路との相補的關係 - 上越市3町の比較検討

研究課題名(英文) Interaction between road and house with 'Gangi' from the viewpoint of changing process through the comparative study among three villages in Joetsu city in Niigata prefecture

研究代表者

黒野 弘靖 (Kurono, Hiroyasu)

新潟大学・自然科学系・准教授

研究者番号：80221951

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は伝統的な街路空間である 雁木 について、近代以降から現代までの間に、町家の更新されるなかで相隣関係が保持され、街路や主屋と一体となって相補的な空間システムが形成されてきた過程を把握することを目的とした。同じ地理的条件にあり街路景観の異なる新潟県上越市内の城下町 高田、湊町 直江津、街路村 稲田 について、それぞれの1街区を選定した(大町3丁目、裏砂山町、稲田1丁目)。街区の変容過程の分析から、雁木は屋敷内の生活に根ざしていること、雁木は住宅から道路や水路への働きかけの拠点となっていること、これにより各町の特徴的な街路景観がつけられていることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：For this study we conducted the survey of three villages with Japanese traditional colonnade 'Gangi' in Joetsu city to compare with them from the viewpoint of changing process. As an example of straight colonnade, sloped colonnade, curved colonnade along watercourse, we chose castle town 'Takada', port town 'Noaetsu' and rural village 'Inada' respectively. We analyzed changing process of the arrangement of buildings in the premises of the three villages. As a result we realized that Gangi has been strongly connected with lives in the premises. Differences of three townscapes have arisen from settings on streets which relate to lives in each village. Openness of Gangi was a regulating factor which allowed interaction between a street and a house as well as interactions among neighboring premises.

研究分野：工学

キーワード：雁木 町家 道路 水路 屋敷 平面

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 日本における伝統的な街道沿い空間については、1970年代の伝統的建造物群保存地区制度の発足に伴い、歴史的な実証にもとづく町並みの保護と復原が行われるようになった。現在では40以上の地区があり、町並みを構成する住宅の歴史的な構法も明らかにされている(文化庁建造物課:町並み保存のネットワーク,1984)。また、2005年の景観法の成立を契機に、多くの自治体で伝統的な外観を維持するための制度を整えようとする活動がなされている。

(2) 建築学会の建築計画や農村計画の分野においては、現在も残る各地の特徴的な住まい方を収集し、集住のしくみを現代の計画に反映しようとする活動が続けられてきた(日本建築学会編,図説集落,pp.150-167,1986,都市文化社,日本建築学会編,集住の知恵,技報堂,2005)。また、建築史の分野では、近世の地方都市や在郷町に関して、都市形成史の視点からその成立経緯が明らかにされている(高橋康夫:図集 日本都市史,1993)。

(3) 本研究が対象とする新潟県上越市の3つの町並み、城下町 高田、湊町 直江津、街路村 稲田の雁木通については、氏家武:雁木通りの地理学的研究,1995において、雁木通りの分布とその屋根形状や素材による分類がなされている。また、高田と直江津の歴史的建造物については、上越市創造行政研究所:歴史的建造物の保存と活用に関する調査報告書,平成14年において、個別事例の実測と解説がなされている。

## 2. 研究の目的

(1) 伝統的な街路空間である 雁木 について、近代以降から現代までの間に、町家の更新されるなかで相隣関係が保持され、街路や主屋と一体となって相補的な空間システムが形成されてきた過程を把握する。新潟県上越市という同じ地理的条件にあり景観上の

特徴の異なる、城下町 高田、湊町 直江津、街路村 稲田の1街区について、現代と1960年代の街路・屋敷・平面の構成を街区単位で分析することにより、町家の相隣関係と町家・街路間の相補的關係との変容過程を明らかにする。それにより両者が関連して個性的な街路空間が町ごとにつくられ、保持されてきた根拠を明らかにする。

## 3. 研究の方法

(1) 本研究は同じ地理的条件にあり景観の異なる上越市内の城下町 高田、湊町 直江津、街路村 稲田について1街区を選定し、現状の空間構成を街区、屋敷、住宅のレベルで連続的に把握し、1960年代の空間を復元した。高田については土地区画整理事業従前図と比較することにより街区の変容過程を把握した。聞き取りから屋敷と住居の利用の変容過程を把握した。

## 4. 研究成果

(1) 城下町 高田 については直線状の雁木通りと背割水路を特徴とする大町3丁目の1街区を選んだ。屋敷裏側の水路と畑の利用を聞き取り、上越市が保管する1978年の土地区画整理事業従前図から敷地内の家屋と水路の配置を図面化し、水路利用や相隣関係に依拠する空間配置の型を把握した。短冊形敷地の裏側は畑として利用されていた。地尻に接して水路や儀明川が通っていた。敷地には保護勾配がついていた。儀明川には、数軒おきに共用の洗い場が設けられていた。法面には階段が設けられ降りられた。この洗い場を野菜洗いや洗濯に利用していた。夏季には生活は裏側へも広がっていた。ガイドコロには井戸があった。井戸は飲料水に利用していた。井戸と洗い場を使い分けていた。排水は隣地境界に沿った溝で裏側の水路に流していた。大

町、仲町、東本町では2軒で1本の敷地境界線上の溝を共用していた。隣地境界に塀垣は設けられていなかった。敷地の前側だけでなく裏側でも夏季には近隣住民の行き来があった。

1960年代になると、自動車交通量が増え、雁木は自動車交通から守られた安全な歩行空間としての性格が強まった。1978年頃から敷地裏の水路が暗渠化され、各戸が敷地裏側の一部を供出して、火災時の避難道路が整備された。これに伴い防火用道路沿いには車庫などの付属屋が設けられた。

雁木町家は土間のトオリニワが道路から敷地裏庭まで貫通していた。敷地裏に防火用道路が通された後、畑として利用されていた裏庭に車庫が建てられた。町家内部では、トオリニワの台所部分に床が張られた。雁木通りから敷地裏への通り抜けはできなくなった。裏側水路の変更に伴い、敷地の前側と裏側は、街区の構成要素としての位置づけや住宅平面とのつながりが希薄になった。

(2) 湊町 直江津 については旧裏砂山町を選び、現況の連続配置図を街区レベルで作成した。聞き取りと写真資料により1960年代の屋敷構えを復元した。裏砂山町通りには現在も中央に段差がある。1960年まで街路中央に屋根付きの共用井戸が2か所あったこと、通りの両側の雁木下に共用井戸が1か所ずつあったことを把握した。近代の直江津における職業ごとの住戸分布から、旧裏砂山町通りには漁師と船員の専用住宅が多数を占めていたとわかった。敷地は奥行きが小さく、各戸は地尻の水路や個別の井戸を持たなかった。共用井戸の位置を確認した。維持管理をおこなった井戸組の範囲が現在の地縁組織の範囲と対応していることを把握した。1960年の上水道

敷設により共用井戸は廃止された。一方、主屋の雁木側に個別の水道蛇口が設けられた。雁木での野菜洗いは継続している。井戸組も親睦組織として存続する。

(3) 街路村 稲田 については稲田1丁目を選んだ。稲田 1丁目は史料により、天明期に町立てされた稲田豎町（現在の稲田2丁目）とは異なり、寛文年間に街路村として新田開発されたと判明した。街路の中央に水路の流れる雁木通り両側の連続する4軒について連続配置図を作成した。空中写真と閉鎖地籍図により1950年代の配置図を復元した。中央水路には作場道と交わる場所に橋が架けられ、西岸に洗い場が設置され樹木が並んでいた。農家専用の雁木町家では収穫した稲を大道用水脇の樹木に架け、早朝にミセで脱穀し、籾殻を雁木通りに積んでいた。1980年代に農業用水路の付け替えと上水道敷設が実施された。大道用水は雪処理を担う開渠の排水路とされコンクリートのU字溝となり幅を縮められた。大道用水の片側のミチが2車線道路に拡幅され舗装された。車道とならなかった側のミチでは現在も住民が植木鉢を置いたり打ち水をしたりしている。冬季には住民は住宅の屋根からミチ越しに排水路まで雪樋を架け渡して屋根雪を処理している。

(4) 連続立面図の変容過程から、城下町 高田 大町3丁目では、隣家側面に高窓を設けた雁木町家が隣家の建て替えに伴い、高窓を天窓に変更するという採光方法の調整を確認できた。湊町 直江津 や街路村 稲田 の雁木町家にも高窓からの採光を確認した。

(5) 祭礼時の雁木空間の設えを連続平面図と断面図に記述した。雁木の柱間が本来の公

私境界であることを示し、ミチを神聖な領域として囲う設えと行動が共通していた。

(6) 変容過程の分析から、屋敷内全体の生活のなかで雁木は敷地の一部として住宅平面と関連付いていること、雁木は住宅の道路への働きかけの場となっていること、雁木の開放性が相隣関係の根拠となっていること、その結果、各地区の特徴的な街路景観がつくられていることを明らかにした。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計8件)

Hiroyasu KURONO: Maintaining inhabitants' mind to preserve an eave which forms Japanese traditional colonnade at Takada, IAPS 24, 査読有, Lund/Alnarp 2016, conference abstracts, pp.325-326 (Lund/Alnarp, Sweden, 27 June -1 July 2016.)

常川雄太, 黒野弘靖: 雁木町家の裏側水路と空間構成の変容過程 -上越市高田大町3丁目の事例から-, 日本建築学会北陸支部研究報告集, 査読無, 第59号, 2016, pp.353-356

黒野弘靖, 千葉巧也, 高橋人志: 上越市高田における雁木整備支援制度と住民意向の反映, 日本建築学会技術報告集, 査読有, vol.21, No.48, Jun., 2015, pp.731-734

土田大貴, 黒野弘靖: 水路沿い雁木町家の相隣関係の変化, 日本建築学会北陸支部研究報告集, 査読無, 第58号, 2015, pp.383-386

井上萌, 黒野弘靖: 神輿と屋台の経路と雁木町家との対応関係 -直江津旧裏砂山町を対象として-, 日本建築学会北陸支部研究報告集, 査読無, 第58号, 2015, pp.387-390

土田大貴, 高橋人志, 黒野弘靖: 上越市稲田1丁目における農業を営む雁木町家の変容, 日本建築学会北陸支部研究報告集, 査読無, 第57号, 2014, pp.549-552

千葉巧也, 黒野弘靖: 上越市高田における雁木のある町内居住者の意向と雁木整備補助制度の運用, 日本建築学会北陸支部研究報告集, 査読無, 第57号, 2014, pp.585-588

井上萌, 高橋人志, 黒野弘靖: 上越市直江津旧裏砂山町と旧中嶋町における雁木通りの変容, 日本建築学会北陸支部研究報告集, 査読無, 第57号, 2014, pp.630-633

〔学会発表〕(計6件)

黒野弘靖: エコミュージアムと居住文化, 2016年度日本建築学会大会(九州)研究協議会資料 居住文化とミュージアム -ネットワークでつなぐ新しい博物館のかたち 建築計画編-, 2016年8月25日, p.1, 福岡大学(福岡県・福岡市)

黒野弘靖, 常川雄太: 大町通りにおける敷地裏共用溝と雁木の連続 -直線状雁木通りの城下町<高田>の居住特性 その1, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E2, 2016年8月24日, pp.1041-1042, 福岡大学(福岡県・福岡市)

常川雄太, 黒野弘靖: 雁木町家の敷地内空間の変容過程 -直線状雁木通りの城下町<高田>の居住特性 その2, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E2, 2016年8月24日, pp.1043-1044, 福岡大学(福岡県・福岡市)

土田大貴, 黒野弘靖: 雁木町家の平面と水利用との対応 -水路沿い雁木通りの在郷町<稲田>の居住特性に関する研究 その3, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E2, 2015年9月4日, pp.981-982, 東海大学(神奈川県・平塚市)

黒野弘靖,高橋人志,千葉巧也,土田大貴 :  
街の構成と水利用に対応した雁木と社会組織  
の広がり 斜面にある雁木通りの湊町 直江  
津 の居住特性 その1, 日本建築学会大会学  
術講演梗概集, E2, 2014年9月12日,  
pp.1045-1046, 神戸大学(兵庫県・神戸市)

高橋人志,黒野弘靖,千葉巧也,土田大貴 :  
住居専用町家における雁木空間の変容街 斜  
面にある雁木通りの湊町 直江津 の居住特  
性 その2, 日本建築学会大会学術講演梗概集,  
E2, 2014年9月12日, pp.1047-1048, 神戸大学  
(兵庫県・神戸市)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

招待講演

黒野弘靖 : 上越市における雪国ならではの  
の景観を形成する建築物等の特徴について,  
上越市の地域資源を学ぶ -雪国文化の視点  
から, 上越市第6回まちづくり職員トーク,  
上越市創造行政研究所, 2017年1月27日, 上  
越市役所木田庁舎4階402・403会議室(新潟  
県・上越市)

ホームページ

[http://www.eng.niigata-u.ac.jp/~kurono/t  
op.html](http://www.eng.niigata-u.ac.jp/~kurono/top.html)

変容過程からみた雁木町家の相隣関係と  
街路との相補的關係 -上越市3町の比較検討

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

黒野 弘靖 (KURONO, Hiroyasu)

新潟大学・自然科学系・准教授

研究者番号: 80221951

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

菊地 成朋 (KIKUCHI, Shigetomo)

九州大学・人間環境学研究科・教授

研究者番号: 60195203